

西洋経済史A(京都大学経済学部 2004 年度(平成 16 年度)前期)

— 昨年 の 講 義 — 「パクスブリタニカからパクスアメリカナへ」現代欧米経済史本年— それぞれの  
のような内部構造をもっていたのか、基軸産業の展開を中心に解説 AB

「最初の工業国家」イギリスにおいて、前近代社会とは区別される資本主義的生産様式が、なぜ  
(Why)、いつ(When)、だれが(Who)、どこで(Where)、どのようにして(How)、生み出されたの  
か？そしてそれは何か(What2)？19 世紀末から 20 世紀初頭にかけて成立したパクスブリタニカ  
の成立史

講義の進め方—先人の足跡を（虚心坦懐に）学ぶ

- ・ 日本における西洋（とりわけイギリス）経済史

大塚史学 『欧州経済史』、1956 年

講座派 宇野派 「堀江シュレー」

西洋経済史講座 5 巻本 岩波書店、1960 年

大塚久雄編 『西洋経済史』筑摩書房、1968 年

松田智雄編 『西洋経済史』青林書院新社、1982 年

角山栄・川北稔編 講座西洋経済五巻本、1979 年

角山栄編著 『新版西洋経済学』学文社 1983 年

- ・ イギリスにおけるイギリス経済史

英国経済学会 The Royal Economic Society Economic History 刊行

経済史学会 The Economic History Society 論文

Economic History Review

トニー・アシュトン・アシュレー等初期の歴史家→日本に翻訳

マシアス『最初の工業国家』

Peter Mathias, The First Industrial Nation, 1969

社会史・文化史の伸張と経済史の危機

イギリスの本屋の本棚—主要書店でもイギリス史の各時代別コーナーに  
分散、ロンドン大学前の Brackwell(旧 Dillons)に"Social and Economic History"のコーナーがあ  
るぐらい初心者向けにわりきった教科書

David Taylor, Mastering Economic and Social History(Macmillan, 1988).

分厚い共同プロジェクト

ケンブリッジ経済史3巻本(2004年)-数量経済史へのシフト

The Cambridge Economic History of Modern Britain

Volume I 1700-1860

Volume II 1860-1939

Volume III 1939-2000

イギリス資本主義成立の道筋と資本主義の特質について、具体的なトピックについての大塚久雄と堀江英一の教科書の説明の違いを対比しつつ、できるだけイギリスの学界の最近の成果をとりいれつつ解説したい。

受講者に要求することと講義の進め方

①「教科書対応表」にそって、教科書2冊を事前に読んできてください。

指定教科書の読み方-『経済史入門』と『欧州経済史』

②講義で事前に出す演習問題を解いてきてください。

今週「第二次囲い込みを第一次囲い込みと対比させて論ぜよ」

中学・高校の「世界史jにおける西洋経済史

事項暗記的な手法 or モデレートされた「大塚史学」

日本史における経済史に比べ深み・分析が浅い?

③指定教科書に出てきた用語・受講者の質問・演習問題の解説にできあだけ対応するようにしたい。

Population「人口」→イギリスの経済史の教科書ではたいてい最初の章におかれている。

Thomas Robert Malthus, 1766-1834

『初版人口の原理』(1798年) An essay on the Principial of Population

「人口は等比級数的に、食料は等差級数的に」(「マルサスのわな」)

1086年 約350万人-イングランド

1750年 約650万人-イングランド・ウェールズ

1821年 約1200万人

1789年 フランス革命

『初版人口の原理』

- ・コンドルセー・ゴドウィンの共和主義的立場への批判
- ・救貧法の廃止-救貧法により貧民に貨幣を与えると生産量一定の食料品の価格が上昇し、より多くの労働者の生活状態が悪化する。
- ・自由貿易に反対-安い外国穀物が輸入されることにより、劣等な土地の耕作が放棄され、地主

の手に入る地代が減少する。(←→スミス・リカード)

→地主階級を勢力基盤とするトーリー政権の支持

政策的焦点は、救貧法と穀物法

マルサスの危機意識は現実にどのように克服されたのか？

イギリスの19世紀の経済成長

‘agrarian revolution’ 1850・75

a poky of free trade since 1870 (アメリカからの穀物輸入)

「Population=人口」か？

Collins

Population

- 1) an the persons inhabiting a country; city, or other specified place
- 2) the number of such inhabitants

Thesauras

Citizenry denizens, folk, inhabitants, native, populace, residents, society

OED

- 1) A peopled or inhabited place. 1578,1613
- 2) The degree in which a place is populated or inhabited; hence, the total number of

persons inhabiting a country, town, or other area 1612-1798-1803 18・19世紀に急増  
マルサスー狭義の人口（数）でなく、イギリスの経済政策とそれが人々の活動に与える影響を幅広く論じた。

数量的把握にとどまらず、経済生活を営む「生きて活動する」住民の総体の再生産を念頭に置いた経済分析・歴史分析をこころがけたい

農業→繊維工業→重工業→サービス業

イギリス中世社会における地主（土地所有者）と農民の関係からどのように資本主義的生産関係が生まれてくるか？

population 具体的な表象、そのままでは混沌に過ぎない、を分析・理解するツールとしてに経済史の用語（範疇、カテゴリー）を歴史的展開に沿って、順次説明していきたい。

西洋経済史 A (京都大学経済学部 2004 年度 (平成 16 年度) 前期) 講義概要とテキスト対応表

	堀江英一 『経済史入門』	大塚久雄 『欧州経済史』
<b>【1】西洋経済史学の課題と対象</b>		
(1) はじめに 講義の概要と進め方		
(2) 農業革命	6 章	
(3) 産業革命		1 章
<b>【2】イギリス産業資本主義確立過程</b>		
(1) 毛織物工業とマニユファクチュア	5 章	2 章 1
(2) 綿工業と機械制大工業	7 章 1AB 10 章 1A	2
(3) 石炭業・製鉄業とエネルギー革命	7 章 1CD 9 章 4A 10 章 1C	3
(4) 運河・鉄道・造船と交通革命	7 章 2-4	4
<b>【3】イギリス資本主義の特質</b>		
(1) 穀物法と自由貿易体制	8 章 1	3 章
(2) 救貧法と中間階級・労働者階級	8 章 2・3 10 章 3	「資本主義社会の形成」
(3) シティと「ジェントルマン資本主義」	11 章 2	
<b>【4】資本主義の世界化</b>		
(1) ドイツー「プロト工業化」論を中心に	別資料を配布	
(2) ロシアー「国内市場」論を中心に	別資料を配布	

## 新入生向け経済史文献リスト

2004年4月15日

### 【1】経済史全般・入門書

- 小田中直樹『歴史学ってなんだ?』PHP新書、2004年。  
カルロ・マリア・チポッラ『経済史への招待』国文社、2001年。  
永原慶二『20世紀日本の歴史学』吉川弘文館、2003年。  
住谷一彦・和田強編『歴史への視線 大塚史学とその時代』日本経済評論社、1998年  
山田盛太郎『日本資本主義分析』(1934年, 岩波文庫, 1977年)  
服部之総『明治維新史』(1929年, 新泉社, 1979年)

### 【2】日本経済史

- 宇田川勝・中村青志編『マテリアル日本経済史 江戸期から現在まで』  
有斐閣、1999年。  
山崎広明「日本企業史序説-大企業ランキングの安定と変動」東京大学社会科学研究所編『現代日本社会5 構造』東京大学出版会、1991年。  
宮本又郎・阿部武司・宇田川勝『日本経営史 日本型企业経営の発展・江戸から平成へ』  
有斐閣、1995年。  
中川敬一郎・森川英正・由井 常彦編『近代日本経営史の基礎知識?明治維新时期から現代まで』  
有斐閣、1979年増補版第一刷。  
石井寛治『日本経済史(第2版)』東京大学出版会、1991年。  
原朗『日本経済史』放送大学教育振興会、1995年。  
三和良一『概説日本経済史 近現代[第2版]』東京大学出版会、2002年。

### 【3】東アジア経済史

#### 【入門・研究工具】

- 京都大学文学部東洋史研究室編『東洋史辞典』創元社、1980  
伊藤亜人・大村益夫・梶村秀樹・武田幸男監修『朝鮮を知る事典』、平凡社、1986  
石井米雄・高谷好一・ほか監修『東南アジアを知る事典』、平凡社、1986  
河部利夫編『東南アジア社会文化辞典』東京堂出版、1978  
日本イスラム協会監修『イスラム事典』平凡社、1982  
前嶋信次・加藤九祚共編『シルクロード事典』芙蓉書房、1975

大沢陽典・大庭修・小玉新次郎編『アジアの歴史』法律文化社、1978  
松田寿男『アジアの歴史』(NHK 市民大学叢書)日本放送出版協会、1971  
宮崎市定『アジア史概説』学生社、1976  
宮崎市定『アジア史研究』(全4巻)東洋史研究会、1957-1964  
宮崎市定『アジア史論考』(全3巻)朝日新聞社、1976  
歴史研究会編『アジア現代史』(全3冊)青木書店、1979-1981  
小島麗逸編『日本帝国主義と東アジア』アジア経済研究所、1979  
山田憲太郎『東亜香料史研究』中央公論美術社、1976  
植村泰夫・堀和生ほか編『東アジア経済の軌跡』青木書店 2001

#### 【アジア論】

加藤祐三『イギリスとアジア—近代史の原画—』岩波新書、岩波書店、1980  
小池賢治『経営代理制度論』アジア経済研究所、1979  
重松伸司編『現代アジア移民』名古屋大学出版会、1986  
石井米雄編『東南アジアの歴史』(『講座 東南アジア学 4』)弘文堂、1991  
吉原久仁夫編『東南アジアの経済』(『講座 東南アジア学 8』)弘文堂、1991  
市村真一編『東南アジアの経済発展』創文社、1975  
市村真一編『東南アジアの自然・社会・経済』創文社、1974  
石井米雄編『タイ国—ひとつの稲作社会』創文社、1975  
ヤン・M.ブルヴィア『東南アジア現代史—植民地・戦争・独立—』東洋経済新報社、1977  
権上康男『フランス帝国主義とアジア：インドシナ銀行史研究』東京大学出版会、1985  
大木昌『インドネシア社会経済史研究』勁草書房、1984  
リチャード・ロビソン『インドネシア—政治・経済体制の分析—』三一書房、1987  
原洋之介『アジア経済論』NTT出版、1999

#### 【中国前近代経済史】

星斌夫『大運河—中国の漕運—』近藤出版社 1971  
ニーダム, J. 東畑精一・藪内清監修『中国の科学と文明』(全11巻)思索社 1978-91  
藪内清『中国文明の形成』岩波書店 1974  
吉田光邦『中国科学技術史論集』日本放送出版協会 1972  
西嶋定生『中国経済史研究』東京大学出版会 1966  
曾我部静雄『中国社会経済史の研究』吉川弘文堂 1976  
河原由郎『宋代社会経済史研究』勁草書房 1980  
斯波義信『宋代商業史研究』風間書房 1968 1979 再刊  
濱島敦俊『明代江南農村社会の研究』東京大学出版会 1982  
市古尚三『明代貨幣史考』鳳書房 1977

- 寺田隆信 『山西商人の研究—明代における商人および商業資本—』 東洋史研究会 1972  
百瀬弘 『明清社会経済史研究』 研文出版 1980  
川勝守 『明清江南農業経済史研究』 東京大学出版会 1992  
岸本美緒 『明清交替と江南社会：17世紀中国の秩序問題』 東京大学出版会 1999  
岸本美緒 『清代中国の物価と経済変動』 研文出版 1997  
北村敬直 『清代社会経済史研究』 日本評論社 1972  
重田徳 『清代社会経済史研究』 岩波書店 1975  
星斌夫 『明清時代交通史の研究』 山川出版社 1971  
森田明 『清代水利史研究』 亜紀書房 1974  
佐伯富 『清代塩政の研究』 東洋史研究会 1956

#### 【中国近代経済史】

- 田中正俊 『中国近代経済史研究序説』 東京大学出版会 1973  
横山英 『中国近代化の経済構造』 亜紀書房 1972  
大谷敏夫 『中国近代政治経済史入門』 八千代出版 1972  
天野元之助 『中国農業の地域的展開』 龍溪書舎 1979  
スキナー, G.W. 『中国農村の市場・社会構造』 法律文化社 1979  
旗田巍 『中国村落と共同体理論』 岩波書店 1973  
村松祐次 『近代江南の租税—中国地主制度の研究—』 東京大学出版会 1972  
村松祐次 『中国経済の社会態制』 東洋経済新報社 1949 1975 覆刻  
渡辺長雄 『中国資本主義と戦後経済—国共経済体制の比較研究—』 東洋経済新報社 1950  
池田誠・田尻利ほか 『中国工業化の歴史』 法律文化社 1982  
島一郎 『中国民族工業の展開』 ミネルヴァ書房 1978  
野沢豊編 『中国の幣制改革と国際関係』 東京大学出版会 1981  
黒田明伸 『中華帝国の構造と世界経済』 名古屋大学出版会 1994  
国家資本輸出研究会編 『日本の資本輸出—対中借款の研究—』 多賀出版 1986  
岡本隆司 『近代中国と海関』 名古屋大学出版会 1999  
久保亨 『戦間期中国<自立への模索>関税通貨政策と経済発展』 東京大学出版会 1999  
濱下武志 『中国近代経済史研究—清末海関財政と開港場市場圏—』 東洋文化研究所 1989  
石井摩耶子 『近代中国とイギリス資本：19世紀後半のジャーディン・マセソン商会を中心に』 東京大学出版会 1998

#### 【中国現代史】

- A.エクスタイン 『中国の経済革命』 東京大学出版会 1980 石川滋監訳  
草野文男 『現代中国経済史研究』 拓殖大学 1985  
小島麗逸 『中国の経済と技術』 勁草書房 1975

中兼和津次 『中国経済論：農工関係の政治経済学』 東京大学出版会 1992  
中兼和津次ほか 『人民公社制度の研究』 アジア経済研究所 1980  
宮下忠雄・豊田隆明 『中国革命と通貨政策』 東大阪所書店 1978  
藤本昭 『新中国の国家財政の研究』 有斐閣 1971  
南部稔 『中国の国家財政の研究』 神戸商科大学 1981  
三木毅 『中国回復期の経済政策—新民主主義経済論—』 川島書店 1971  
三木毅 『中国経済政策史』 札幌光明社 1996  
宮下忠雄・上野秀夫 『中国経済の国際的展開』 ミネルヴァ書房 1975  
橋本満・深尾葉子編 『現代中国の底流』 行路社 1990  
奥村哲 『中国の現代史 戦争と社会主義』 青木書店 1999

#### 【華僑・華人経済】

可児弘明 『近代中国の苦力と「猪花」』 岩波書店 1979  
市川信義 『華僑社会経済論序説』 九州大学出版会 1987  
内田直作 『東南アジア華僑の社会と経済』 千倉書房 1982  
游仲勲編著 『21世紀の華人・華僑』 ジャパンタイムズ 2001

#### 【アジア的交易圏論】

杉原薫 『アジア間貿易の形成と構造』 ミネルヴァ書房、1996  
古田和子 『上海ネットワークと近代東アジア』 東京大学出版会 2000  
浜下武志 『近代中国の国際的契機：朝貢貿易システムと近代アジア』 東京大学出版会 1990  
杉山伸也 『近代東アジアの流通ネットワーク』 創文社 1999  
濱下武志編 『東アジア世界の地域ネットワーク』 山川出版社、1999  
尾本恵市・濱下武志ほか編 『海のアジア1：海のパラダイム』 岩波書店、2000  
濱下武志・川勝平太変 『アジア交易圏と日本工業化』 リグロポート社 1991  
川勝平太 『グローバル・ヒストリーに向けて』 藤原書店 2002

#### 【植民地史】

小島麗逸 編 『日本帝国主義と東アジア』 アジア経済研究所、1979  
松本俊郎 『侵略と開発：日本資本主義と中国植民地化』 御茶の水書房、1988  
山本有造 『日本植民地経済史研究』 1992  
中村 哲 編 『東アジア資本主義の形成』 青木書店、1994  
堀和生・中村哲編 『日本資本主義と朝鮮・台湾』 京都大学学術出版会 2004

#### 【満州】

塚瀬 進 『中国近代東北経済史研究：鉄道敷設と中国東北経済の変化』 東方書店 1993



山本有造『「満州国」経済史研究』名古屋大学出版会、2003  
松本俊郎『満州国から新中国へ』名古屋大学出版会、2000  
金子文夫『近代日本における対満投資』近藤出版社 1991  
安富歩『「満州国」の金融』創文社 1997

#### 【台湾】

矢内原忠雄『帝国主義下の台湾』岩波書店、1988  
余照彦『日本帝国主義下の台湾』東京大学出版会、1975（注：余は二水がつく）  
東嘉生『台湾経済史研究』台北、1944  
黄昭堂『台湾民主国の研究—台湾独立運動史の一断章—』東京大学出版会、1970  
劉明修『台湾統治と阿片問題』山川出版社、1983  
近藤正己『総力戦と台湾—日本植民地崩壊の研究—』刀水書房、1996  
江丙坤『台湾地租改正の研究』東京大学出版会、1974  
劉進慶『戦後台湾経済分析』東京大学出版会、1975  
隅谷三喜男・劉進慶・余照彦『台湾の経済』東京大学出版会、1992  
若林正文編著『台湾—転換期の政治と経済—』田畑書店、1987  
石田浩『アジアの中の台湾』関西大学出版部 1999  
朝元照雄『現代台湾経済分析：開発経済学からのアプローチ』勁草書房、1996

#### 【朝鮮・韓国】

高秉雲『近代朝鮮経済史の研究』雄山閣、1978  
宮嶋博史『朝鮮土地調査事業史の研究』汲古書院...  
高島雅明『朝鮮における植民地金融史の研究』大原新生社、1978  
羽鳥敬彦『朝鮮における植民地幣制の形成』（朝鮮近代史研究双書 4）未来社、1986  
梶村秀樹『朝鮮における資本主義の形成と展開』龍溪書舎、1977  
林柄潤『植民地における商業的農業の展開』東京大学出版会、1974  
中村 哲・安秉直編『近代朝鮮工業化の研究』日本評論社、1993  
富岡・梶村・新納・鈴木『韓国経済試論』白桃書房、1984  
堀和生『朝鮮工業化の史的分析』有斐閣 1995  
服部民夫『韓国の経営発展』文真堂、1988  
服部民夫編『韓国の工業化—発展の構図』アジア経済研究所、1987  
渡辺利夫『現代韓国経済分析』勁草書房、1983  
朴宇熙・渡辺利夫共編『韓国の経済発展』文真堂、1983

#### 【4】欧米経済史

##### 【教科書】

- 神武庸四郎・萩原伸次郎『西洋経済史』有斐閣、1989  
石坂昭雄他『新版西洋経済史』有斐閣双書、1976  
荒井政治他『概説西洋経済史』有斐閣選書、1980  
関口尚志他『欧米経済史』放送大学教育振興会、1994  
湯沢威『イギリス経済史』有斐閣ブックス、1996

##### 【全般】

- 堀江英一『経済史入門（第3版）』有斐閣双書、1979  
安部悦生・壽永欣三郎・山口一臣『ケースブック・アメリカ経営史』有斐閣ブックス、2001  
大塚久雄『欧州経済史』岩波現代文庫、2001  
堀江英一『改訂産業資本主義の構造理論』有斐閣、1960  
ピオリ・セーブル『第二の産業分水嶺』筑摩書房、1993  
尾崎芳治『経済学と歴史変革』青木書店、1990  
渡辺尚『ラインの産業革命』東洋経済新報社、1982  
渡辺尚・作道潤編『現代ヨーロッパ経営史』有斐閣、1996  
中村哲『近代世界史像の再構成』青木書店、1991  
中村哲『奴隷制・農奴制の理論』東京大学出版会、1977  
馬場哲・小野塚知二編『西洋経済史学』東京大学出版会、2001  
塩見治人他『アメリカ・ビッグビジネス成立史』東洋経済新報社、1986  
廣田功・森建資編『戦後再建期のヨーロッパ経済』日本経済新報社、1998  
鈴木圭介編『アメリカ経済史』東京大学出版会、1972  
鈴木圭介編『アメリカ経済史II』東京大学出版会、1987  
松井和夫『現代アメリカ金融資本研究序説』文真堂、1986  
呉天降『アメリカ金融資本成立史』有斐閣、1971  
岡田泰男・須藤功『アメリカ経済史の新潮流』慶應義塾大学出版会、2003  
須藤功『アメリカ巨大企業体制の成立と銀行』名古屋大学出版会、1996  
谷口明丈『巨大企業の世紀』有斐閣、2002  
ガードナー『国際通貨体制成立史』東洋経済新報社、1973  
パーロ『最高の金融帝国』合同出版、1958

##### 【講座】

- 大塚久雄・高橋幸八郎・松田智雄編著『西洋経済史講座 I～V』岩波書店  
入江節次郎編『講座西洋経済史 I～V』同文館

増田四郎他編『社会経済史大系1～10』弘文館

【古典】

リスト『経済学の国民的体系』岩波書店、1970

マルクス『資本論』岩波文庫、1978-79

レーニン『ロシアにおける資本主義の発展』国民文庫、1976

シュムペーター『経済発展の理論』岩波文庫、1982

ウェーバー『プロテスタンティズムの精神と資本主義の精神』岩波文庫、1989

トーニー『宗教と資本主義の興隆』岩波文庫、1956

チャンドラー『経営戦略と組織』実業之日本社、1967

ヒックス『経済史の理論』講談社学術文庫、1995

作成【2】渡辺純子、【3】堀和生、【1】【4】坂出健